

平成26年第2回竹原市議会定例会会議録

平成26年6月17日開会

(平成26年6月17日)

議席順	氏 名	出 欠
1	山 元 経 穂	出 席
2	高 重 洋 介	出 席
3	堀 越 賢 二	出 席
4	川 本 円	出 席
5	井 上 美 津 子	出 席
6	山 村 道 信	出 席
7	大 川 弘 雄	出 席
8	道 法 知 江	出 席
9	宮 原 忠 行	出 席
10	片 山 和 昭	出 席
11	北 元 豊	出 席
12	稲 田 雅 士	出 席
13	松 本 進	出 席
14	脇 本 茂 紀	出 席

職務のため議場に参加した者は、下記のとおりである

議 会 事 務 局 長 西 口 広 崇

議会事務局次長 住 田 昭 徳

説明のため議場に参加した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名	出 欠
市 長	吉 田 基	出 席
副 市 長	三 好 晶 伸	出 席
教 育 長	竹 下 昌 憲	出 席
総 務 部 長	中 川 隆 二	出 席
総 務 課 長	塚 原 一 俊	出 席
情 報 化 推 進 室 長	塚 原 一 俊	出 席
企 画 政 策 課 長	福 田 吉 晴	出 席
財 政 課 長	沖 本 太	出 席
税 務 課 長	向 井 聡 司	出 席
会 計 管 理 者	前 本 憲 男	出 席
会 計 課 長	前 本 憲 男	出 席
監 査 委 員 事 務 局 長	広 近 隆 幸	出 席
選挙管理委員会事務局長	広 近 隆 幸	出 席
市 民 生 活 部 長	今 榮 敏 彦	出 席
市 民 健 康 課 長	森 野 隆 典	出 席
まちづくり推進課長	國 川 昭 治	出 席
文化生涯学習室長	堀 信 正 純	出 席
忠 海 支 所 長	森 野 隆 典	出 席
人 権 推 進 室 長	博 庄 八 郎	出 席
福 祉 課 長	平 田 康 宏	出 席
子 ど も 福 祉 室 長	井 上 光 由	出 席
建 設 産 業 部 長	細 羽 則 生	出 席
産 業 振 興 課 長	桶 本 哲 也	出 席
商 工 観 光 室 長	向 井 直 毅	出 席
建 設 課 長	大 田 哲 也	出 席
都 市 整 備 課 長	有 本 圭 司	出 席
区 画 整 理 室 長	有 本 圭 司	出 席
上 下 水 道 課 長	沖 谷 秀 一	出 席
農 業 委 員 会 事 務 局 長	桶 本 哲 也	出 席
教育委員会教育次長	久 重 雅 昭	出 席
教育委員会教育振興課長	久 重 雅 昭	出 席
教育委員会学校教育課長	九 十 九 邦 守	出 席
公 営 企 業 部 長	宮 地 憲 二	出 席

付議事件は下記のとおりである

日程第1 会議録署名議員の指名について

日程第2 会期の決定について

日程第3 諸般の報告

(1) 報告第1号 平成25年度竹原市一般会計繰越明許費繰越計算書について

(2) 報告第2号 平成25年度竹原市公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書について

(3) 報告第3号 平成25年度竹原市介護保険特別会計繰越明許費繰越計算書について

(4) 報告第4号 工事請負契約の変更について

(5) 報告第7号 竹原流通センター株式会社の経営状況について

日程第4 一般質問

午前１０時００分 開会

議長（稲田雅士君） 皆さんおはようございます。

ただいまの出席議員１４名であります。定足数に達しておりますので、これより平成２６年第２回竹原市議会定例会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

議長から報告いたします。

まず、監査委員より平成２６年２月から平成２６年４月分までの例月出納検査結果の報告がありましたので、その写しをお手元に配付しておきましたから、御了承お願いいたします。

次に、議長において受理いたしております陳情書等につきましては、陳情書等受理一覧表としてお手元に配付しておきましたので、御了承願います。

以上で議長からの報告を終わります。

これより日程に入ります。

日程第１

議長（稲田雅士君） 日程第１，会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第１２０条の規定により、議長において井上美津子君、脇本茂紀君を指名いたします。

日程第２

議長（稲田雅士君） 日程第２，会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

今期定例会の会期は、本日から６月２０日までの４日間といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（稲田雅士君） 御異議なしと認めます。よって、今期定例会の会期は、本日から６月２０日までの４日間と決定いたしました。

日程第３

議長（稲田雅士君） 日程第３，諸般の報告を行います。

報告案件は5件であります。

報告第1号平成25年度竹原市一般会計繰越明許費繰越計算書について事務局職員から報告文を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（稲田雅士君） 市長から報告理由の説明を求めます。

市長。

市長（吉田 基君） 報告第1号平成25年度竹原市一般会計繰越明許費繰越計算書について御説明申し上げます。

繰り越した事業については16事業であります。主な事業について御報告させていただきます。

まず、障害者福祉システム改修事業については、繰越額が80万円であり、平成26年6月を完成予定としております。

保育所施設整備事業については、繰越額が9,189万円であり、平成27年2月を完成予定としております。

子ども・子育て支援新システム構築事業については、繰越額が896万4,000円であり、平成27年3月を完成予定としております。

竹原港北崎旅客ターミナル改修事業については、国の経済対策に係る追加補正に伴う財源を活用した事業を含む繰越額が6,864万1,000円であり、平成26年7月を完成予定としております。

忠海港整備事業については、繰越額が200万円であり、平成27年3月を完成予定としております。

新開土地区画整理事業については、繰越額が5,826万9,000円であり、平成26年7月を完成予定としております。

平成25年公共土木施設災害復旧事業については、繰越額が300万円であり、平成26年10月を完成予定としております。

県営事業については、港湾事業、道路事業、急傾斜事業など3事業の合計額が1,696万3,000円であり、年度内での事業完了を予定しております。

また、平成26年第1回定例会で繰り越しの議決を頂いた国の経済対策に係る追加補正に伴う財源を活用した事業につきましては、道路橋梁施設、港湾施設、公園施設、教育施設などの整備・改修を行う6事業の繰越額が、合計で1億8,600万円であり、年度内

での事業完了を予定しております。

以上のとおり、繰越明許費に係る事業の状況について御報告いたしますので、よろしくお願いいたします。

議長（稲田雅士君） これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（稲田雅士君） これをもって質疑を終結いたします。

報告第2号平成25年度竹原市公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書について事務局職員から報告文を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（稲田雅士君） 市長から報告理由の説明を求めます。

市長。

市長（吉田 基君） 報告第2号平成25年度竹原市公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書について御説明申し上げます。

公共下水道事業については、繰越額が5,200万円であり、平成26年7月を完成予定としております。

また、平成26年第1回定例会で繰り越しの議決を頂いた国の経済対策に係る追加補正に伴う財源を活用した事業に係る繰越額が1,900万円であり、平成26年12月を完成予定としております。

以上のとおり、繰越明許費に係る事業の状況について御報告いたしますので、よろしくお願いを申し上げます。

議長（稲田雅士君） これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（稲田雅士君） これをもって質疑を終結いたします。

報告第3号平成25年度竹原市介護保険特別会計繰越明許費繰越計算書について事務局職員から報告文を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（稲田雅士君） 市長から報告理由の説明を求めます。

市長。

市長（吉田 基君） 報告第3号平成25年度竹原市介護保険特別会計繰越明許費繰越計算書について御説明申し上げます。

システム改修事業については、繰越額が１０４万９，０００円であり、平成２６年１０月を完成予定としております。

以上のとおり、繰越明許費に係る事業の状況について御報告いたしますので、よろしくお願いを申し上げます。

議長（稲田雅士君） これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（稲田雅士君） これをもって質疑を終結いたします。

報告第４号工事請負契約の変更について事務局職員から報告文を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（稲田雅士君） 市長から報告理由の説明を求めます。

市長。

市長（吉田 基君） 報告第４号工事請負契約の変更について、御報告申し上げます。

本件は、平成２５年議案第４１号により議決を得た竹原市立竹原小学校屋内運動場新築工事の請負契約について、契約金額を変更する必要性が生じたので、地方自治法第１８０条第１項の規定により専決処分いたしましたものであります。

主な変更の内容につきましては、まず、杭工事に伴い、地下支障物により当該工事の施工方法を変更いたしました。また、その他として労務単価の見直しやコートラインの追加等をいたしました。

以上の変更に伴い、契約金額を２３６万２，５００円増加し、総額２億３，３０４万７，５００円とする建設工事変更請負契約を締結しました。

以上のとおり、工事請負契約の変更について御報告申し上げます。

議長（稲田雅士君） これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（稲田雅士君） これをもって質疑を終結いたします。

報告第７号竹原流通センター株式会社の経営状況について事務局職員から報告文を朗読させます。

〔事務局職員朗読〕

議長（稲田雅士君） 市長から報告理由の説明を求めます。

市長。

市長（吉田 基君） 報告第７号竹原流通センター株式会社の経営状況について御報告申

し上げます。

まず、平成25年度の決算額についてであります。収入としましては、卸売業者・関連業者の使用料であります営業収入1,014万1,872円、営業外収入3万14円、合わせて1,017万1,886円であります。

これに対し、支出といたしまして、租税公課費・給料及び減価償却費等の一般管理費として918万583円、支払い利息36万4,444円、合わせて954万5,027円となり、差し引き当期純利益は62万6,859円となるものであります。

なお、貸借対照表及び損益計算書につきましては、お配りいたしております資料のとおりでありますので、説明は省略させていただきます。

続きまして、平成26年度事業方針及び収支計画について御説明申し上げます。

まず事業方針につきましては、竹原流通センター株式会社が今後も存続していくためには、卸売業者と連携を密にすることはもちろんのこと、食の安全安心や低価格志向など消費者の需要に即応し、生鮮食料品の安全かつ安定供給に努めるとともに、空き関連店舗への早期入居促進を図り、できる限り経費節減に注力し、健全経営を目指していくものであります。

次に、収支計画につきましては、収入では営業収入989万4,288円、営業外収入1万1,920円、合わせて990万6,208円を見込んでおります。

これに対し、支出としまして、租税公課費・給料及び減価償却費等の一般管理費として936万5,000円、支払い利息32万円、合わせて968万5,000円を計上し、差し引き当期利益は22万1,208円となる見込みであります。

なお、細目につきましては、お配りしております資料のとおりであります。

以上のとおり、市が資本金の2分の1以上を出資している株式会社の経営状況について御報告申し上げます。

議長（稲田雅士君） これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（稲田雅士君） これをもって質疑を終結いたします。

以上をもって諸般の報告を終結いたします。

議事の都合により、午後1時まで休憩いたします。

午前10時19分 休憩

午後 1時00分 再開

議長（稲田雅士君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

日程第4

議長（稲田雅士君） 日程第4，一般質問を行います。

質問の順位は，お手元に配付の平成26年第2回竹原市議会定例会一般質問一覧表のとおり決定いたしております。

順次質問を許します。

質問順位1番，堀越賢二君の登壇を許します。

3番（堀越賢二君） 皆さんこんにちは。

ただいま議長より登壇の許可を頂きました快政会の堀越賢二です。

壇上にて一般質問をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

今回の一般質問は，住みよさの実感ということでこちらをキーワードに質問をさせていただきます。

平成26年度当初予算の考えにも「住みよさ実感の推進」とあり，竹原市第5次総合計画の将来像及び施策基軸として，「人・自然・時の豊かさ『住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら』～支えあいのふれあいづくり～」とあります。

これらを抽象的ではなく本当に実感をするためには，各地域で生活をされている人々の生活環境の向上や地域文化を伝承し地域力を高めていく，そういったための地域連携の強化，そして充実をした教育環境の整備や防災・減災，安心・安全の地域の基盤整備など，これらはどれも欠かすことができないことであります。

しかしながら，限られた財源の中でこれらを実行していくためには，これら事業をしっかりと調査し，またしっかりと連携をしながらより大きな効果を出すことが求められているのではないのでしょうか。

そういった観点から，住みよさ実感の推進について3つの質問をさせていただきます。

まず，質問の1といたしまして，この住みよさ実感のため，現時点で最重要課題は何かということについてです。

先ほども申しましたが，これらの事業はどれもが大切で必要であるということはわかりますが，現在の状況を分析して今後の竹原市，これを考えたときにやはり大きな舵取りが必要になってくるのではないのでしょうか。その舵をどういった方向にどういった具合に切っていくのか，それによっては今後の竹原市が，竹原市の将来が大きく変わってくるもの

だと考えています。そして、様々な事業が単独ではなくて、全ては竹原市民のための住みよいまちづくりのために進められているということは十分に承知をしておりますが、あえてその中でも重要だと考えられていることについてお聞きをしたいと思います。

続きまして、質問の２といたしまして住みよさ実感のための連携先についてです。

竹原市には、大小はありますが数多くの団体や組織があり、それぞれがしっかりとした独自性を持ち、それぞれがしっかりと活動をされています。その中には観光であったり文化であったり商工業の発展、健康増進、子育て、自然環境の保護など様々な分野があり、積極的かつ効果的な活動をされています。

また、各地にあります公民館による活動や、今年度には竹原市内１７地区全てにおいて住民自治組織が設立をされる予定となっております。今後、ますます地域に密着した、そういった活動により地域力の向上が図れるものだと考えています。

現在それぞれが連携、協力、理解をしながら事業推進に努めているとは思いますが、今後さらなる連携先を探っていく、それは市内、そういったようなものに限らず市内外、また県内外問わずにふるさとの再生、そういったために連携、推進を図っていく団体や組織、これらの連携先についてお聞きをいたします。

そして、質問の３といたしまして、吉田市長が、やはり自らがこの竹原市において住みよさを実感している具体的な例を教えてくださいたいと思います。

竹原市のトップセールスマンとしての吉田市長が、やはり自らが実感をされていなければ竹原市の皆さんが住みよさを実感することはできないのではないかと考えています。市民感情を肌で感じて頂き、市民目線に立った積極的で柔軟な政治姿勢により、今後より一層に事業を推進して頂けるものと確信しております。

そこで何点でも結構ですので、吉田市長が自らが実感している住みよさについてお聞きしたいと思います。

壇上での質問は以上の３点です。どうぞよろしくお願いいたします。

議長（稲田雅士君） 順次答弁願います。

市長。

市長（吉田 基君） 堀越議員の質問にお答えをさせていただきます。

まず、住みよさ実感のための現時点での最重要課題についてであります。本市におきましては平成２１年に議会の議決を頂いて策定いたしました竹原市総合計画に基づき、目指す将来像を「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」として「子どもが夢をも

ち人が輝くまちをはぐくもう」をはじめとする6項目の施策の基軸に基づき、「暮らしの質の向上を図るための条件整備」や「交流人口の拡大から定住へとつながる施策」に取り組んでいるところであります。

また、本年度から、この総合計画の後半の5年を迎えるに当たり、後期基本計画を策定し「ふるさと竹原の“強み”を生かした更なる挑戦～人口減少社会に対応した活力ある竹原市をめざして～」をテーマとして、本市の特性を生かしながら各施策を展開していくこととしております。

こうした中で、今後、後期基本計画の施策を推進するに当たっては、引き続き人口減少を緩和するための定住、交流の促進や、持続可能な社会の実現に向けた市民の皆様の暮らしの質の維持、向上に取り組んでいくことが重要であると認識いたしております。

こうした認識のもと、後期基本計画におきましては、これまでに顕在化してきた課題に対応するため、子育て環境の確保、充実、さらなる企業誘致の推進と雇用の場の安定的な確保、医療提供体制の充実、町並み保存地区のさらなる活用、魅力づくり、人口減少社会に対応したコンパクトなまちづくりの推進、市民が輝く協働のまちづくりの推進などの16の施策を「チャレンジプロジェクト」として位置づけ、特に力を入れて推進してまいりたいと考えております。

次に、住みよさ実感の連携先についてであります。市民の皆様の「住みよさ実感」の実現は、特定の施策により達成できるものではなく、先ほど申しあげました様々な施策を実施し、総合的かつ中・長期的な視点に立ち、継続して取り組んでいくことが重要であると認識いたしております。

これらの施策の実現のためには、市民の皆様をはじめとして、社会を構成する様々な組織や団体の御理解、御協力が必要不可欠であることから、取り組み内容に応じて各関係者との連携をさせて頂きながら施策を推進してまいりたいと考えております。

また、私が具体的に感じている住みよさ実感についてであります。所信表明でも申しあげましたが、本市は瀬戸内の穏やかな気候、豊かな自然、歴史、文化、コミュニティなど数多くの地域資源を有しております。温暖少雨で過ごしやすい気候やそれにより培われた海、山、川をはじめとした豊かな自然は、市民の皆様の「住みよさ」に大きく寄与するものであると考えております。

また、歴史、文化につきまして、とりわけ歴史というものは日々の蓄積により築かれるものであり、この蓄積、すなわち歴史は新たにつくり出すことはできません。先達が築い

てこれ、現在市民の皆様がそれを受け継ぎ、維持、発展させようとしている本市の歴史、文化は本市の住みよさにつながるものと認識いたしております。

さらに、コミュニティについて、住民自治組織における取り組みや活動、各地域で行われている祭りやイベントなどは、本市以外のどの地域においても行われているというものではありません。こうした市民の皆様の積極的な取り組みも、市民の皆様の住みよさに結びつくものであると考えております。

今後とも、この地域資源を生かしたまちづくりを推進し、市民の皆様の暮らしの質のさらなる向上を目指してまいりたいと考えております。

議長（稲田雅士君） 3 番。

3 番（堀越賢二君） ありがとうございます。

まず、質問 1 の住みよさ実感のための重要課題ということですが、答弁の中にもありました第 5 次総合計画の施策の 6 つの基軸ということで、1 つ目、こちら「子どもが夢をもち人が輝くまちをはぐくもう」、これは人ということです。そして 2 番目に、「人が集まる元気なまちを育てよう」、元気。3 番目に、「健やかで支えあう安心のまちをつくろう」、安心。4 番目に、「竹原のもつ住みよい環境を守り育てよう」、竹原の個性。5 番目に、「安全でしっかりとした都市基盤をつくり活かそう」、安全、快適。6 番目に、「まちづくりの推進力をみんなで築こう」、これは地方分権、地域協働とあります。

これらの 6 つは全てつながっており、市長のおっしゃられるとおり、ふるさと再生、ふるさとの竹原の強みになっているものと思っております。逆に言いますと、子どもが夢を持てない町であっていい訳がありません。人が集まらないところに、そういったところが元気であるはずがありません。支え合うことができない町に人は住めませんし、住まないでしょう。自然環境が温暖で、安心して安全に暮らせる、そういった環境が竹原市にはあります。そして、その魅力あるまちづくりは、みんなでやっていきましょうということが第 5 次総合計画の施策の 6 つの基軸だと思っております。

市長の答弁頂きました中でも、人口減少を緩和するための定住交流の促進や持続可能な社会の実現においては、先輩議員のほうからも今までに出ております産科医の問題であったりですか、子育て世代への施策、そして雇用の確保、そういったことは非常に重要であることは十分理解しております。

私は、今回の住みよさの実感というこの点について考えさせて頂くに、老若男女、そして障害のある人もない人も全ての人々が全ての人々にとって住みよいまちづくりの推進が

何においても必要だと考えます。この6つの基軸の中の一つであります健やかで支え合う安心のまちづくりは、そこに寄り添い思い支えることが何より大切ではないのでしょうか。実感をするということは、思われている、そして大切にされていることを私は味わうことができるといったようなことが実感だと考えています。

市内におきまして道路の点字ブロック、各地域にそれぞれありますが、この点字ブロックのほう剥がれていたりとか、ブロックが古いものであったり、材質によっては磨耗してそれ自体が認識できない、そういったようなものもあります。また、色によっては非常に識別しにくく、必要とされている方にとって非常に改善が必要な部分が多くあるようにも思います。しかしながら、剥離や損傷している部分については、先日本当に迅速な対応をして頂きましたことに対しては感謝をしております。

こういった小さなこと、大切なことではありますけど、小さなことでも迅速に対応をして頂いたということは、これは竹原の市民の皆さんであったり竹原に関わって頂ける全てのそういった方の住みよさの実感、やはり実感というものにつながるものだと思います。

今後も市民の皆様、そして竹原に関わって頂いている皆様のニーズに迅速に対応をして頂ける体制のますますの確立、またそれらの維持をして頂きたいのと、利用される方のことを思い、そういった利便性の向上、また現在の状況の分析等に努めていって頂きたいと思います。

そこで質問1としての、これらは管轄の違い等もあるかとは思いますが、現在竹原市内におきましての、そういったものの補修や改善が必要な箇所について把握をされているか、その点について質問をさせて頂きたいと思います。お願いいたします。

議長（稲田雅士君） 建設課長。

建設課長（大田哲也君） 道路の点字ブロックについての御質問でございますが、本市では第5次総合計画の中で暮らしの安全と安心の確保のために交通安全対策の推進を施策の目標に掲げ、安全で快適な交通環境の整備に向けて取り組んでいるところでございます。

一般的に点字ブロックと言われております視覚障害者誘導用ブロックにつきましては、竹原駅を着終点といたしまして市内周辺の国道、県道の歩道のほかに市が管理しておりますアイフル316の歩道にも点字ブロックの設置をしております。

また、この点字ブロックは視覚障害者の方を安全に誘導、または段差の存在等の警告、もしくは注意喚起を行うために路面に敷設されているものでございます。

現在の市内では、点字ブロックの修繕や改修が必要な箇所を把握されているかとの御質

間でございますが、点字ブロックの補修が必要な箇所につきましては、これまで維持修繕等で対応させて頂いておりまして、今後抜本的な修繕、補修、また取りかえが必要な箇所がある場合には、点字ブロックの傷み具合を調査いたしまして関係機関と協議し、適切に対応してまいります。

また、歩行者の安全確保につきましては、昨年度策定しました竹原市通学路交通安全プログラムに基づきまして、国、県の道路管理者とともに地域住民や保護者、学校等と連携をしながら道路の点検、対策、対策効果の把握、対策の改善、充実に取り組んでまいりますのでよろしくお願いをいたします。

議長（稲田雅士君） 3 番。

3 番（堀越賢二君） ありがとうございます。

竹原駅といったものは、全ての窓口となるような気がいたしております。その竹原駅から市役所に延びる道においても今後改善が必要なところもあると思いますので、しっかりと修繕をしていくところは修繕をして頂きまして、利用される方がよりよいそういった環境を作って、今後ますますそういったようなものを進めて頂きたいと思います。

そういったものにつきましても、まちづくりの中と合わせてしっかりと進めていくことが住みよさの実感というものにつながっていくのではと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質問の2番目として住みよさ実感のための連携先ということですが、吉田市長に御答弁頂きました中にも、特定の施策によって達成できるものではないというふうにありました。もちろん、全てが先ほどからも申しましたように全てが大切で必要であり、つながっていくことが大事であると考えます。

しかし、そういった中においても連携先といった部分で考えると各地、各団体がそれぞれ密接に連携をしていくこと、そういったことが非常に大切で、そこには行政の方も積極的に参画をしていくことが大事であると考えております。これが正に、6つの基軸の中にありますまちづくりの推進力をみんなで築いていこうという部分だと思っております。

今年度、17地区全てにおいて住民自治組織が設立をされ、今後さらなる協働のまちづくりの推進が図れるものだと考えておりますし、地域のニーズや地域の問題はそれぞれの地域によって違うものだと考えておりますので、それら17地区の住民自治組織がしっかりと今以上に結びついてつながっていく、またそこには行政もより深く連携して参画していくことが必要だと考えております。

そこで、今後の住民自治組織との連携また方向性、施策、そちらについて伺いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

議長（稲田雅士君） まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（國川昭治君） 住民自治組織との連携についての質問でございますが、協働のまちづくりにおきましては、平成１７年１０月に竹原市協働のまちづくり推進プランを作成しまして、協働のまちづくりについての出前講座、今後の取り組みについての一人１アンケートを経まして、平成１９年４月、田万里地区での最初の住民自治組織が設立され、現在１６地区、また今年度末を目標に全１７地区の設立に向けて取り組みを推進しているところでございます。

これまでの活動を通じまして、各地域では地域課題の解決や魅力づくりが進んできたところでございますが、防災につきましては全組織で取り組みが推進されているところでありますが、その他主な取り組み例ではありますけれども、環境美化活動としての仁賀地区でのガードレール美化清掃活動、また高齢者支援としての忠海第３地区の個人宅を活用しました会愛サロンの取り組みや、地域交流としての竹原第３地区の正月飾り、あるいは大乘地区の卒業記念壁画制作、また小梨地区のホタルまつり、吉名地区の地域交流ウオークラリー大会などのイベント開催、また地域資源の掘り起こし、魅力づくりとしての大井宿根地区の宿根の大桜付近の整備など、各地域において個性ある活動が進んでおります。

しかし一方では、住民全体を巻き込んだ活動になっていない、また分野、世代ごとのリーダーの育成、人材不足、またノウハウを学べる場、話し合う場が必要であるなどとの課題も見えてきているところでございます。

本市といたしましては、今後住民自治組織を強化していくために平成２３年度から実施しております住民自治組織間の連携交流、また情報交換の場、さらには行政との連絡の場としての住民自治組織交流会のより一層の充実を図るとともに、これまでの活動の成果をより充実していくとともに、交流の場、情報の場、また学べる場、活動の場となる活動拠点の整備など、各住民自治組織との協議によりまして課題解決や組織の活動の推進に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

以上です。

議長（稲田雅士君） ３番。

３番（堀越賢二君） ありがとうございます。

先ほどの答弁の中にもあったように、各それぞれの地域がそれぞれの地域の特色を生か

した活動を継続的にしっかりと、また新しいものにも取り組みながら現在様々な事業をして頂いております。

そして、先ほど交流をしっかりと進めているということでしたが、今年度において17地区の住民自治組織が設立された場合、やはりより全てにできたということで、より今以上にしっかりとした交流を深めていく、そういったことになれば、手続だけが増えたということではなくて、協議会のようなものも立ち上げが必要になってくるかも知れませんが、そういったものがなくてもしっかりと意見や成功事例、失敗事例、そういったいろいろな地域の良さ、問題点といったような情報の共有を図っていく場の創出というものを積極的に行政の方も推し進めて頂きたいと思います。

現在も担当の職員の方には、しっかりと各それぞれの地域の事業に参加をして頂き、本当に住民と一体となった協働のまちづくりにお手伝いをして頂いております。その行政が参画して頂いている部分をさらなる広がりというものを御検討頂いて、この竹原市の中で充実した協働のまちづくりといったようなものを今後とも推し進めて頂きたいと思います。これはやはりチャンス、そういった節目のときに行動を起こすことが今後の大きな動き、大きな柱につながっていくものと考えますので、より一層の推進、そちらの方をお願いしたいと思います。

そして質問の3、吉田市長が御自身で実感をされている住みよさ、こちらについてですが、本当に温かく、そして住民自治組織への御理解ある御答弁ありがとうございました。

その答弁の中で、歴史というものは日々の蓄積により築かれるものである、そうありました。竹原市は、風光明媚で温暖な気候に恵まれ、すばらしい自然環境があります。また、人工的につくられた歴史ではなく、当時の歴史文化を大切に守り残してきた文化財などは、本当に市民の皆様の生活の中で生まれてきた大切な地域力の賜物だと考えております。

先日、私の地元、大乘で活動されている大乘自然環境を守る会の皆さん、こちらの活動がひろしま環境賞を受賞されました。こちらの活動は、この受賞をしたくて活動をしている訳でもありませんし、その活動を知っている方からの推薦ということで受賞をされました。こうした日々の地道な活動がこうして認められること、こういったようなことがずっと申しております住みよさの実感、これに結びつくものだと考えております。

実際、当たり前にも思われていることではありますが、竹原の神明さんについても各地域それぞれ特色あるものをつくられております。また、それに合わせて様々な神事や事業も

ございます。これは、なかなか市内全域でそういったものがあるというようなものも他の地域では見られるものではなく、本当に竹原市、特色のあるものだと思います。

今後、一人でも多くの竹原市の皆さんがすばらしいこの魅力ある竹原で住みよさを実感して頂くためには、この地域資源をしっかりと生かした地域力の向上、そこでしっかりと子どもたちが健やかに成長していける環境を整備することが大事だと思います。また、非常に重要なことだと考えております。

それにはやはりいい活動といったようなものをしっかりと皆さんに知って頂く、そういったことが必要だと思いますので、現在竹原には地元ケーブルテレビのタネットケーブルテレビがあります。このタネットを利用して、さらなるそういったPR、タネットの活用が今後竹原市のいいところをPRしていく必要不可欠なものだと考えておりますので、しっかりと市民の活動を応援していくこのタネット、公設民営ということではありますが、今後タネットの連携や方向性をお聞かせ頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

議長（稲田雅士君） 総務課長。

総務課長（塚原一俊君） それでは、タネットとの今後の連携であるとか方向性といった御質問でございました。

まず、このタネット放送でございますけれども、もともと情報通信基盤整備といったもので、平成22年を中心にインフラの整備を行っておるというものでございます。

当初の目的が大きく2点ございまして、地上アナログ波の停波ということに対してデジタル放送の難視聴区域をなくするというのが1点と、あとは光通信システムを使ったインターネット環境の整備というものからこういった事業が始まっております。

ただ、現在では、実際の運営に当たりましては地域の身近な情報であるとか、そういったものを放送しておるという状況でございます。もちろん、いろんな安全・安心であるとか地域の活性化などを目標にして、今御指摘がありました市政情報であるとかイベント情報、または神明さんなどの祭りであるとか、小学校の運動会であるとか、そういった幅広い分野を皆様のほうへお届けしているという状況でございます。そういったものにつきましては今後も力を入れながら、子どもたちが例えば竹原市に対して親しみを持って頂くであるとか、子どもたちに限らず全ての住民の皆様が竹原市に興味を持っていくといった方向で努めてまいりたいと思います。

それともう一点なんですけど、あとは今後の課題として緊急情報の発信についてというも

のが課題であろうかと思います。緊急時であるとか災害時における住民の皆様への情報伝達について、これからまだ取り組んでいかなければならない分野があると考えております。内容につきましては、地震であるとか台風、大雨などの気象情報が1点、そして感染症であるとか大気汚染といった衛生であるとか環境面の情報が1点、そして災害時の道路情報であるとか公共交通機関の運行状況の情報等を想定して今後取り組んでいくべきであると考えております。

もちろんこのタネットを利用した情報発信については、竹原市が最も力を入れている部分で、今後もそのように考えておりますけれども、情報発信についてはこれに限らず、毎月5日に全戸配布をさせて頂いております広報紙であるとか、あとはホームページ、フェイスブック、ツイッター、そして防災情報メール等、様々なツールがございますので、いろんな情報を的確に適切に通じるよう、いろんなツールの組み合わせで今後情報発信していきたいと考えております。

御指摘頂きましたように今後のタネットとの連携、こういったものを強める中でより有益で質の高い情報発信に努めて、もちろん加入者も増やしていく中でより効果的な情報を当てる手段として、今後タネットと連携しながら取り組んでまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

議長（稲田雅士君） 3番。

3番（堀越賢二君） ありがとうございます。

特に今後災害等は、これを皆さんにできるだけ早い時期に伝えていくといったようなことについては本当に重要なものだと考えますので、引き続きしっかりとした体制を確立して頂けますようお願いいたします。

先ほど受賞されたという話をさせて頂きましたが、その時に吉田市長に表敬訪問に伺いまして、その時の状況をタネットさんの方に取材をして頂きました。最後にいつものタネットチャンネル、そのコールをさせて頂いた時の吉田市長がおられる後ろには、そこにも住みよさ実感という言葉が書いてあります。そうした市民の皆さんに様々な活動を触れていく場がそこにあり、また市長とともにそういったような受賞、その喜びを分かち合うといったようなことが、その小さな活動ではありますけど、今後ますます広がりを持っていく事業に必ずつながっていくものだと思いますので、そういった小さなものではありませんけど、積極的に市長にも耳を傾け、目を向けて頂いて、しっかりと御理解を頂いた上で、また協力を頂きたいと思います。

先ほども申しましたように、吉田市長は竹原のトップセールスマンであります。今後、先ほどありましたメディア、フェイスブックですとか広報、竹原市のホームページ、ツイッター等々を利用して今後ますます竹原のセールスマン、トップセールスマンとしての活躍を願っておりますので、よければその思いを最後に頂ければと思います。いかがなものでしょうか。よろしくお願いいたします。

議長（稲田雅士君） 市長。

市長（吉田 基君） 堀越さんの思いといいますか、いろいろな視点でのお気持ちをお聞きいたしまして、本当にありがたく感謝をしたいと、このように思います。

生まれて育って教育を受けて、そして働いて、結婚して、子どもをつくって、頑張っただの世代のためにバトンタッチをしていくという、こういう中で私たちは限りなくこの竹原というものを享受、これは先輩のおかげであり地域の皆さんのおかげでもあると、このように受けとめております。

思い起こせばもう随分前になりますが、私も堀越さんと同じような立場でこのまちづくりに竹原の将来について何度も質問してきたことが、今まさに直近のように思い出されません。山に登る道は幾ばくかは差があったとしても、頂点というものは同じ感覚ではなかろうか、このように思っております。個々のいろいろな御質問について一つ一つ御答弁をさせて頂ければ一番いいんですが、これはまた折を見て時間もかかりますし、ほかの場でのお話にかえさせて頂きたいと思いますが。

トップセールスとしてどのようなことを積み重ねていくかということは、所信表明でも申し上げましたし、私が一番強く念じておるのは、戦後少子・高齢化という日本に初めての大きな山といいますか、このことについてありとあらゆる制度が戦後のレジーム、この岐路に立っていると言っても過言ではないと、このように思います。

ところが、竹原は御存知のようにだんだんだんだん人口減少が他の町に比べて少し早いように私も認識いたしております。その原因というものを突き詰めていけば、いろいろなこの竹原における魅力、たくさんあるんですが、いまだ少し足らなかったことがあるように私も反省をする次第でございます。

医療の問題にしても本当に悩ましい産科の問題、悩んでおります。企業の誘致も、心の底から雇用の創出ということを願ってやみません。教育の問題、そしてこれからの竹原に大きく迫ってくるであろう道州制の導入とか、そういった中で行政の自治体のあり方も問われてくる厳しい消滅可能性がある都市ということも指摘されております。何もしなかつ

たらこのままずるずるずるずる、じり貧になったらいけないという認識は議会の皆さんと共通いたしております。

一つ一つ皆さん方に御指導頂きながら力を合わせて乗り越えていきたい、また個々の問題についても私、一生懸命頑張って誠心誠意、努力をしていきたいと、このように思っております。どうぞ御理解と御協力頂いて、一緒に手を携えてこのまちづくりに、私たちが望む住みよさ実感の竹原にしていきたいと、このように思っております。

これをもって答弁とさせて頂きたい。ありがとうございました。

議長（稲田雅士君） 3 番。

3 番（堀越賢二君） 吉田市長、ありがとうございました。しっかりとした御自身の言葉で御返答頂いたこと、本当にうれしく思います。

本当にまちづくりの推進力をみんなで創っていこうということでありますので、いろんな問題は山積しております。そのことも十分、私も理解しております。しかしながら、乗り越えられない山もないでしょうし、朝は必ずやってきます。そういった中で、我々も竹原市の一人の市民としてやるべきことをしっかり行い、また今の立場でしっかりとしたまちづくりを推進していくことを、こちらをお約束をして私の一般質問を終わります。

以上です。ありがとうございました。

議長（稲田雅士君） 以上をもって堀越賢二君の一般質問を終結いたします。

議事の都合により、明6月18日午前10時から会議を再開することとし、本日はこれにて散会いたします。

午後1時48分 散会